



TITLE:

1938年5月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

1938年5月の天象. 天界 1938, 18(204): 48-46

ISSUE DATE:

1938-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167638>

RIGHT:

晩春の星座 5月に入ると地上ではもはや萬物

に汗がにじみ出る。殊に海岸から遠い京都
では夏の雲が空高く昇るやうになつてくる。

1938年

5月の天象

冬の空を飾る輝星の群も今は大部分西の
空に太陽とともに沈んでしまつた。爽かな

日没後の風の中に、まづ浮ぶものは、東天高いアクトウル(まきを座 α 星)
とスピカ(をとめ座 α 星)。黄昏の薄明りも消えて星々がその固有の輝きを
現はしはじめる頃、中天には“しし”が悠然とかゝつてゐる。南天にならぶ
小さい星々をたどれば、東西100度に及ぶ“ヒドラ”の長々とした星列が北
天の“りょう”と比べられる。

“まきを”座の東には小さくまとまつた“かんむり”星座がある。誰にも異
存のない形である。この星座のR星は不規則變光星の一代表として有名であ
る。 ϵ 星と θ 星とを結ぶ線上、 ϵ から $\frac{1}{2}$ 程の所にあり、普通は六等星であつ
て見附け易いが、時に急激に減光する。

5月は銀河のない月である。輝星の背景としての冬の銀河は既に西に去り
雄大な夏の銀河は夜半を待たねば姿を現さない。

變光星 アルゴル型のもので有名な“てんびん”座 δ 星は東天に高く見え
るやうになつた。2日8時間を週期とする蝕變光星である。13回もの極小期が
豫報されてはゐるが、4日1時、24日24時、の2回が最も都合よく、10日の0時
半、18日の0時半は月光の妨げがある。

彗 星 去年はダニエル彗星の獲得に新年早々氣をよくしたのであつたが、今
年は未だ一つも発見されぬ(3月9日記)。尤も一般に彗星の発見は前半年より
も後半に多い傾向があるから心配するのは早すぎるが。

小口径の機械しかもたぬわれわれの武器は忍耐である。根氣よい“彗星さ
がし”がどれだけ多くの結果を得たかは今までの発見史に徴しても明かだ。
副産物として、星團星霧を見覺えて行くことも楽しい。“彗星さがし”には何
處へ機械をむけてもいいわけだが、一般に、日没後の西天や日出前の東天に
効果が多いやうである。

流 星 5月上旬の曉天には“みづがめ”座 γ 星附近を輻射點とする有名な流星

群がある。これはかのハリ1彗星と関係があると云はれる。

海王星 “しし”座の南部、 σ 星の南東にあつて光度7.7。5月一ぱいは逆行(見かけ上、星々の間を西に向つて動くこと)してゐるが、31日に停留(見かけ上星々の間に停止すること)し、以後順行(見かけ上、星々の間を東方に動くこと)に移る。われわれのもつ小望遠鏡で見える最遠の遊星である。

土 星 “うを”座の南部を順行中。太陽から次第に離れ曉天に一等級の光を放つ。まだ地球に遠く観望季は昨年同様今年も秋から冬にかけてである。

木 星 “みづがめ”座を順行してをり、これもやはり曉天にある。光度は負2級、熱心な人はもう表面の模様を観察しはじめる。

金 星 宵の明星。光度は負3.4。金星の本質についてはいろいろの説があつて定らない。何しろ眞白に輝く上層大氣を見てゐるのみであるから仕方がなからう。われわれ愛好者としてはその表面の模様を観察し、かすか乍らも現れる模様をスケッチするのみであるが、それも決して無價値なものではない。とにかく、たへず注意してゐることが必要だ。

水 星 5月には曉天にある。光度は月初2級から月末0級にまで達するが、常に太陽に近いので注意せねば見つからぬ。“うを”座より“ひつじ”座に進み太陽より1時間餘早く東に昇る。19日に西方極大離隔(見かけ上、太陽より西方へ最も離れて見えるとき)となるから、その前後、5月中旬から6月初にかけてが観測季である。殊に今回の極大離角は26度であつて最大離角の28度に近いから最も見易いわけである。

火 星 “うし”座のヒヤデスの邊り。太陽に近く、今年は観測できない。

天王星 5日に合(見かけ上、太陽と同方向にあること。即ち太陽の向ふ側に行つたとき)となり、曉天にあらはれる。今月は観測不能。

木星の衛星 衛星相互の蝕現象は5月には十數回もあり、そのうちで日本で見えるのも3回ばかりあるが、日出前であつたり、木星の出現前後であつたりして4月22日ほど都合よくはない。即ち、3日の4時頃、12日の1時半すぎ、19日(天文年鑑に17日とあるのは誤り)の4時半頃等である。3日のは4月22日の逆でガニメドがイオを蝕する。

半影に入る	3時58分
本影に入る	4時 6分
本影が出る	4時25分
半影が出る	4時33分

即ち上表の通り、そのほかのは天文年鑑を見られよ。

小遊星ウエスタ 前號で“てんびん”座と書いたのは誤り、“さそり”座の ϵ 星の僅か西北で5月22日に對衝(太陽とは正反對の方向に見えること、從つて地球に最も近づくわけだ)となる。豫報位置は下表の通り。(前號の續き)

五月 6日	赤經16時13分4	赤緯—11度11分	光度 6.0
14	16 6.4	11 4	5.9
22	15 58.6	11 2	5.9
30	15 50.6	11 7	5.9
六月 7日	15 43.3	11 20	6.0
15	15 37.2	11 41	6.0
23	15 32.8	—12 11	6.1

小遊星ジュノ 5月31日に“へびつかひ”座の λ 星と ϵ 星との中程で對衝となる。(前號參照)

月 食 5月14日の夕方、日本では月帶食として缺けながら昇つてくる。即ち當日の月出は19時前後であるが、皆既
食は18時9分に終つてゐる。月が地
球の本影を去るのは19時31分、半影
を出るのは20時43分である。右に各

札幌	18時50分 (0.6)
東京	18時38分 (0.7)
京都	18時54分 (0.5)
長崎	19時12分 (0.3)
釜山	19時21分 (0.1)

地の月出時刻とその時の食分とを示す。なほこの月食は南北アメリカから太平洋、極東にわたつて見えるものである。(天文年鑑の月食記事、月出月没、東天西天の説明は、食の要素の時刻表を見ていただければ直ぐ判る通り、5月と11月と逆になつてゐるから御訂正下さい。)

日 食 但し日本では全く見えない。5月29日に南大西洋を中心として見える。皆既食(最長時間4分4秒)はオーク=1諸島、南ジョージヤ島、サンドwich群島等で見えるのみで條件は極端に悪い。部分食は南米のチリ、アルゼンチン、ボリギヤ南半、ブラジル南半や、アフリカのアンゴラの南部、英領南阿等である。

太 陽 “ひつじ”座より“うし”座に進む。日出は4時頃、日没は19時頃。

月 この頃は太陽曆と太陰曆と日が殆んど一致する。